

科目名 精神看護学実習 時間割表記名 精神看護学実習	配当時期 3年次 単位数 2単位 時間数 90 時間(11 日間)	講義担当者 樋口 裕也
事前学習内容 実習要項参照		
授業目標 【実習目的】 精神障がいをもつ患者およびその家族の理解を深め、精神障がいがある患者の生活行動に及ぼす影響を総合的に把握し看護を実践する。 【実習目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障がいをもつ患者の身体的・精神的・社会的特徴について理解できる。 2. 精神障がいをもつ患者の個性に応じたセルフケア能力向上への援助ができる。 3. 患者-看護者関係の発展過程を理解し、治療的関わりを実践できる。 4. 精神医療・看護の特殊性を理解できる。 5. 継続看護の必要性を理解し、他部門・チーム間の連携について理解できる。 6. 保健・医療・福祉チームの一員としての自覚をもち、専門職業人として望ましい態度がとれる。 		
DP との関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。 DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。 DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。 DP6. 専門職業人としての責任を自覚し、広い視野にたつて物事を考え、自己研鑽することができる。		
授業の流れ 精神看護学では、精神に障がいをもつ人を対象とし、患者の対人関係の障がいや日常生活行動の障がいの視点から患者を理解し、看護を実践することをねらいとしている。また、患者の治療や生活の場が、精神医療施設から地域生活支援へ移行していることから、入院している患者への看護だけでなく、地域で生活と治療を継続している患者への看護を学ぶようにする。 精神科病棟 11 日間のうち 8 日間は熊本医療センターで実習を行う。前半の 4 日間はシャドウイングを通して、精神障がいをもつ患者への治療の実際と、治療上必要な看護の実際について学ぶ。また、日常生活上必要な援助について、看護師とともに一部実施しながら学ぶ。後半の 4 日間は受け持ち患者の看護過程の展開を通して、精神障がいがある患者の日常生活に及ぼす影響について理解する。また、患者のストレス(強み)に着目した援助について学ぶ。受け持ち前週の後半は、受け持ち患者を選定してもらい、受け持ち患者を担当する看護師にシャドウイングし、受け持ち患者の精神症状の特徴や接近方法について学び、カンファレンスや日々の指導により、患者の能力に応じた日常生活の維持と向上に向けた援助について考える。また、プロセスレコードによる看護場面の再構成により、受け持ち患者との関わりを通して自己の考え方やかわり方を振り返		

り、自己洞察する。

精神科病棟 11 日間のうち 3 日間は菊池病院で実習を行い、精神障がいをもつ患者との個別性のあるかわり方及び患者－看護師関係について学ぶ。臨地実習 1 日は、菊池病院の訪問看護に同行し、精神障がいがあっても治療で症状をコントロールしながらセルフケア能力を高め、様々な社会資源を利用しながら地域での生活を行っていることを学ぶ。

精神障がいをもつ患者の人権を守るための法律や制度についても、オリエンテーションやデモンストレーション、カンファレンスを通して学びを深める。

事例検討会を通して、お互いの学びを共有し、精神障がいをもつ患者及び家族への看護について理解を深める。

評価

ルーブリックに沿って評価する。

使用するテキスト

- ①系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院
- ②系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院
- ③系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院

参考文献

- ①ストレンクスからみた精神看護過程 医学書院